

低学年における情報教育の試み

～「伝え合う力」の育成という視点からの見直し～

横浜市立大口台小学校 佐藤 幸江

＝この提案のウリ＝

小学校教育の第一歩を踏み出し、知識量・技術量が劇的に変化する低学年にスポットを当て、子どもたちがデジタル表現やIT教育のおもしろさにふれて充実感・達成感を味わうとともに、伝え合う力を鍛えていける実践の蓄積

<Point1 学習の総合化…相手意識・目的意識・多様な表現手段>

国語&学級活動&児童会活動 『てがみをかこう』



楽しかった「おべんとうきゅうしょく」のことをうちの人に伝える活動は、子どもたちに書く内容を吟味し、丁寧に書く気持ちを育て、手紙を書く楽しさを味わう学習になっていった。

国語&学校行事&学級活動 『ゆめの車をつくろう大きくせん』



子どもたちは、図書資料をもとに自分に必要な情報を収集・選択し、それを加工をして作る「おきにいりの車ずかん作り」に夢中になった。

その意欲は、「自分の夢の車をつくりたい」という願いをうみ、金沢大学の学生さん方との交流を通して、その願いが本物となっていった。テレビ会議、ビデオレターなどの体験もし、最終的には金沢から「夢の車」が届くという子どもたちの心に残る学習となった。

生活科&学級活動 『大きなあま～い 大こんをそだてよう』

大きな大根をみんなで育てる活動は、「かんしゃの大こんりょうりかい」へとつながっていった。

<Point2 日常的な鍛え… 人とのかわり・メディアの活用>



これまで、情報教育は、「総合的な学習の時間」で行われるというような誤解があった。低学年の学習の中にも、十分埋め込むことができる！さらなる実践を積み上げましょう。